

第2回 JR加古川線（西脇市－谷川間）維持・利用促進WT会議 議事録

- 1 日 時 : 令和4年9月28日(水) 12:30~14:30
- 2 場 所 : 山南住民センター 2階集会室
- 3 出席者 :
沿線市 西脇市都市経営部長、西脇市産業活力再生部長、丹波市ふるさと定住促進課長(代理)、丹波市観光課長(代理)
JR西日本 近畿総括本部神戸支社副支社長
交通事業者 神姫グリーンバス(株)取締役
観光事業者 神姫バス(株)地域事業本部本部長補佐
利用者 西脇商工会議所専務理事、丹波市商工会総務課長(代理)、西脇高等学校長、氷上高等学校長、西脇連合区長会会長、丹波市自治会長会会長
兵庫県 北播磨県民局県民交流室長、丹波県民局副局長兼県民交流室長
オブザーバー 企画部総合政策課主幹、土木部交通政策課副課長、同課主幹

(開始前に「西脇の車窓から」動画放映)

西脇市HPより

<https://www.city.nishiwaki.lg.jp/kakukanogoannai/shichoukoushitsu/hisyokouhouka/CityPromotion/videolibraty/CityCM/25651.html>

4 開 会

第1回加古川線WTの振り返り他 資料1

- ・第1回加古川線WTでは、現状の把握と課題の確認、情報共有を行った。
- ・第2回加古川線WTでは、JR加古川線がこの地域におけるネットワークの中核であり、日常生活やまちづくりにおける地域の重要なインフラと捉え、維持・利用促進について検討を進めていきたい。

5 報告事項

(1) アンケート結果(沿線近隣企業、高校生) 資料2,3

- ・資料2の結果は、勤務地と住居地が隣接している者、加古川線沿線に住んでいない者が多かったことを留意すべきである。
- ・資料3から、高校生は列車の待ち時間に対して課題を感じており、駅やその周辺に待ち時間を解消できるもの、また当該区間に行きたいと思える目的地があれば利用が増えると考えていることがわかった。

(2) 若者の意見交換会

資料4

- ・JR加古川線（西脇市一谷川間）について、沿線地域の高校生や若手職員を中心に、鉄道の利用促進について
 - ①自分や家族が利用したくなるには
 - ②通学での利用者を増やすには
 - ③観光客の利用を増やすにはといった3つのテーマから利用促進策について意見交換を行った。
- ・意見交換会では、「当該区間周辺に目的地となる施設の設置」や「ICカード精算の導入」、「他線、二次交通との連動強化」など様々な意見があがった。

6 議 題

(1) 利用促進策についての検討

資料5-1、2

- ・鉄道の利用促進策について、3つの基本方針と9つの施策の柱を立てて（資料5-2参照）、各委員より今後取組んでいきたいこと、加古川線に必要な利用促進策など検討した。
- ・日常利用、観光利用、まちづくり（その他）の3つの視点から取組みを検討し、それぞれ具体的にICOCA利用等の利便性向上についてや、兵庫DC、大阪・関西万博を見据えた取組み、住民意識の向上などの観点から検討を行った。

(2) 利用促進策に関する主な意見

【日常利用】

- ・サイクルトレインの実証実験を行う場合には、朝夕の通勤・通学時間帯を含めて行っていただきたい。
- ・サイクルトレインを検討していく中で、朝夕の通勤通学の時間帯の実用例がなく設備・ルール・オペレーションなども大きなハードルである。
- ・ICOCAの導入については委員、住民、高校生と幅広く意見が出ているので、駅にIC精算機の導入が難しいのであれば、簡易型（車載型）の精算機の導入を含め検討いただきたい。また、利用者に助成する手段のひとつにICカード利用者への助成方法があり、これらのことからICカード精算機の導入について検討いただきたい。
- ・通勤・通学の日常利用者（周辺駐車場利用者を含む）への助成を行ってほしい。助成を通じて、地元企業等への鉄道利用の呼びかけにつながると考える。
- ・利便性の向上の点で、通勤通学に配慮したダイヤ改正をお願いしたい。

【観光利用】

- ・他のWTでJRから提案されていたWESTER（JRアプリ）への沿線の観光スポットや2次交通等の情報集約について、加古川線WTの委員にも呼びかけていただきたい。

- ・加古川沿線の稲刈り体験、酒蔵巡りなど地域に眠る宝を体験してもらうことが良いのではないかな。
- ・管理などの課題はあるが、観光向けの二次交通の方法のひとつにレンタサイクルなどが考えられないかな。
- ・兵庫 DC や大阪・関西万博に向けてイベントを行うことは大切だが、単発ではなく継続して積み重ねることが大切である。
- ・アンケートから、「当該区間に目的地が無い」「自動車の方が便利」といった理由で利用しないとの意見が多く、コンテンツの発掘・強化や自動車を利用できない層をターゲットに検討していくことが良いのではないかな。
- ・日常利用者を増やすことが利用者増の近道と考えるが、沿線人口の減少を考えると、観光利用者（外からの誘客）を増やすイベントなどの取組みも必要であると考える。

【まちづくり等】

- ・駅の美化ボランティア等、地域の方々と協力して行っていきたい。
- ・播州織でヘッドカバーを作成するなど地域の特産品を活用した列車の装飾を行いたい。
- ・西脇市と丹波市の人口の往来・交流をもっと活発化させていきたい。
- ・せっかく決まった取組みでも、住民の意識が鉄道に向かないと実施することは難しい。住民の意識改革や、沿線のみでなくその市全体で鉄道について問題意識を持つ必要性を感じる。
- ・JRばかりに頼るのではなく、自分たちでも行えるスマート通勤キャンペーンや地域活動家と連携した駅の活性化などにも努めていきたい。
- ・午前中に行われた列車ミーティングのような新しい取組は、今後もチャレンジしていきたい。
- ・谷川駅での朝の停車時間が長いことを利用して行われた列車内ミーティングに関して、列車内にWi-Fiや電源などの整った設備があれば会議利用もより充実すると思う。電源等の設備は車内イベントを行う上でも便利になる。
- ・トイレ等の整備について、もちろん新たに設置することもよいが、例えばバスでは、バス停の近くでそういった設備があるところを利用させてもらうといった動きがある。そういった発想もあり得るのではないかな。
- ・アンケート等を行い地域住民のニーズや移動特性と交通分担率を把握し、データに基づいた分析のもと効果的な取組みを検討していくことが大切ではないかな。